

26年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 6月20日～ 26年7月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月	
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 34.6	△ 26.9	△ 25.0
	マツ	△ 29.2	△ 25.0	△ 18.2
	広葉樹	△ 26.7	△ 20.0	△ 14.3
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 12.5	△ 9.1
	マツ	△ 22.7	△ 13.6	△ 10.0
	広葉樹	△ 10.7	△ 10.7	△ 7.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 23.1	△ 26.9	△ 29.2
	マツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 27.3
	広葉樹	△ 46.7	△ 33.3	△ 32.1

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹の入荷は共に減少傾向で推移。

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹の消費は共に減少傾向で推移。

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹の在庫は共に減少傾向で推移。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ	8.3	7.7	3.8
マツ類	4.5	8.3	4.2
広葉樹	0.0	3.3	0.0

スギ・ヒノキ及びマツ原木価格はやや強保合で推移、広葉樹は7月の保合が8月のやや強保合を経て9月には保合に。

モニターからのコメント

(原木荷動き) ・針葉樹原木は伐採時期が悪くなり出材減と見込む。広葉樹原木は大きな変動ないが梅雨、暑さで減少が見込まれる。為替及び製品の動きで取引先の使用量は増、消費は良い見通し。入荷減、消費増で在庫は減少。 ・間伐材がバイオマス発電用に流れており、仕入れはやや減少気味。 ・梅雨明けまで入荷が少し減るかも、明ければスギ及び広葉樹とも通常入荷に。消費は針葉樹及び広葉樹とも高水準での横ばい。スギ及びヒノキはFIT対応発電用積み増しで在庫増、製紙用の間伐材以外の材は減少、広葉樹は梅雨期は減少と予想。

・天候により荷動き減少が考えられる。消費及び在庫は変動なし。 ・8月お盆のため、現場は休み多くなり入材が少なくなる予定。 ・天候の急な変化により入荷量にばらつきが見える。システム販売が始まり、未利用間伐材入荷でスギ材が増加する。 ・生産に伴った仕入れ、注文に応じた生産状況。横ばい。 ・仕入れは、梅雨のため非常に落ち込んでいる。現在のチップ売価も下がったままで、原木購入単価も消費税分のみの値上げのため伐採業者はコスト的に合っていない模様。円安で輸入チップ値上がりしているが、消費は輸入チップが増えており、国内原木出荷率も下がっているため国内消費は増えていない。在庫は余り増えない。

・原料不足が続くのではないかと不安。消費及び在庫は変わらず。 ・広葉樹原木は民有林からの入荷減少、消費は入荷量見極めながら生産、在庫減少進む。 ・針葉樹は山元出材減に伴い入荷減、広葉樹は里山開発に伴う出材がある、太陽光発電、高速道路建設に伴う出材が多い。消費は製紙各社の定期修理により減少。針葉樹原木及び広葉樹在庫は共に横ばい。

(原木価格) ・いずれの樹種も変動なし。 ・今のところ変化ないが、発電用、製紙用とも出荷順調のためこの先少し上げざるを得ないかも、ただし、チップ価格上がるのが前提。 ・いずれの樹種も変動なし。 ・変わらず。 ・梅雨時期の原木出荷減少で価格がやや上昇。 ・チップ売価変化ないため購入価格変化なし。 ・変わらず。 ・広葉樹原木は在庫減少に伴い仕入れ単価強含み。 ・針葉樹はFIT、輸出用等の影響でじりじり上昇。

26年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/7月	8月	9月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 20.8	△ 12.5	△ 13.6
	マツ類	△ 18.2	△ 4.5	0.0
	広葉樹	△ 21.4	△ 14.3	△ 19.2
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 26.9	△ 11.5	△ 8.3
	マツ類	△ 25.0	△ 16.7	△ 13.6
	広葉樹	△ 20.0	△ 13.3	△ 17.9
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 27.3	△ 27.3	△ 30.0
	マツ類	△ 20.0	△ 20.0	△ 22.2
	広葉樹	△ 37.5	△ 22.7	△ 18.2

スギ・ヒノキ及び広葉樹チップの生産は減少傾向で推移、マツは7月の減少が8,9月は横ばいに。

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹チップの出荷は共に減少傾向で推移。

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹チップの在庫は共に減少傾向で推移。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W. D. I.

品目	26/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

スギ・ヒノキ、マツ及び広葉樹チップの出荷価格は、共に横ばいで推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

・製紙用及びボード用は生産及び出荷とも増加、燃料用は横ばい。在庫は減少。・生産、出荷とも製紙用針葉樹、広葉樹ともにフル稼働。・生産、出荷及び在庫とも変動なし。・変化なし。・入荷状況悪いいため全体に減少。・変わらず。・広葉樹チップは生産及び出荷は減少見通し、在庫はない。・針葉樹チップ、ピンチップは今月も定期修理の影響で使用量減少、燃料用は入荷量をさばくため生産はフル稼働であるが出荷量少なく在庫増加。定期修理のため出荷量抑制中。燃料用は大幅増加続き在庫置き場の確保に苦慮。

(木材チップ価格)

- ・出荷価格はいずれも変動なし。
- ・いずれの樹種も変動なし。
- ・値上げ要求するも一切対応なし。
- ・変わらず。
- ・運賃値上げも考えてほしい。
- ・針葉樹及び広葉樹とも横ばい。